

サマーセミナー2020報告

青木 義満¹⁾, 多田昌裕²⁾, 飛谷 謙介³⁾

1)慶應義塾大学 2)近畿大学 3)長崎県立大学

2020年度のサマーセミナーは、COVID-19の影響から、初のオンライン開催となった。慶應義塾大学工学部矢上キャンパスに運営本部を設置し、全国各地から発表者、参加者がリモートで参加した。若葉研究会の発表は13件、チュートリアルセッションでは1件の特別講演をお願いした。参加者数は企業6名、大学教員16名、学生14名の合計36名であった。

1. はじめに

第29回目となるサマーセミナーは、COVID-19の状況を考慮し、9月7日(月)の終日、オンラインで開催された。映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催は今回で17回目となる。

サマーセミナーの主目的は、学生や企業の若手研究者など若葉研究者に研究発表の場を提供すること、若葉研究者と研究指導者(企業研究者や大学教員)との交流の場を与えること、両学会の研究室学生諸君、研究者同士の交流を図ることである。

2. 開催準備と実施形態

2019年10月から企画を開始し、両組織で検討を重ねた。共催となってからは両組織が交代で主担当となっており、今回はメディア工学研究会側が中心となって開催した。当初は、熱海の宿泊施設での実施を検討していたが、3月頃、予約をキャンセルしてオンライン開催とすることを決めた。

以下に示す企画委員会を設置し、青木委員長のもと、多田幹事(メディア工学研究会)、飛谷幹事(画像応用技術専門委員会)が中心となって準備を行った。構成は以下の通りである(敬称略)。

メディア工学研究会側

- ・青木 義満(慶應義塾大学, 委員長)
- ・多田 昌裕(近畿大学, 幹事)
- ・東海 彰吾(福井大学)
- ・村松 正吾(新潟大学)
- ・伊藤 康一(東北大学)
- ・村上 和人(愛知県立大学, アドバイザー)

画像応用技術専門委員会側

- ・飛谷 謙介(長崎県立大学, 幹事)
- ・菅野 純一(ヴィスコ・テクノロジーズ)
- ・森野 比佐夫(ファースト)
- ・秋月 秀一(中京大学)
- ・吉村 裕一郎(千葉大学)
- ・滝本 裕則(岡山県立大学, アドバイザー)

- ・興水 大和(中京大学, YYC ソリューション, アドバイザー)

サマーセミナーでは、若葉研究会での優秀な発表者に表彰が贈られる。優秀発表賞については、以下の9名で構成される優秀発表賞 審査委員会を設置し、公正かつ平等な審査を行った。

【優秀発表賞審査委員会(敬称略)】

代表会委員

- ・青木 義満(慶應義塾大学, 委員長)
- ・野口 稔(日立ハイテクノロジーズ, 画像応用技術専門委員会委員長)

審査委員(50音順)

- ・秋月 秀一(中京大学)
- ・興水 大和(中京大学, YYC ソリューション)
- ・菅野 純一(ヴィスコ・テクノロジーズ)
- ・多田 昌裕(近畿大学)
- ・東海 彰吾(福井大学)
- ・森野 比佐夫(ファースト)
- ・村上 和人(愛知県立大学)

3. サマーセミナー報告

3.1 参加者数と開催状況

参加者数は企業6名、大学教員16名、学生14名の合計36名(男性35名、女性1名)であった。台風10号の影響もあった中、全国各地からご参加頂いた関係各位に感謝申し上げたい。

初のオンライン開催(Webex Meetingsを活用)であったが、事前に接続テストやリハーサルを実施していたこと、既に参加者がリモート会議になれていたこともあり、大きなトラブルなく当初の予定通り進めることができた。

3.2 若葉研究会

若葉研究会にて13件の発表があった。オンライン開催で質疑応答が心配であったが、リラックスした雰囲気でありながら活発な議論となり、どの発表でも質問が多く積極的な情報交換が行われた。

座長は、多田 昌裕氏（近畿大学）、加藤 邦人氏（岐阜大学）、森野 比佐夫氏（ファースト）、秋月 秀一氏（中京大学）にご担当いただいた。セッションを非常に円滑に進行して頂いた座長各位に感謝したい。

3.3 チュートリアルセッション

今年度は「柔らかな感性が新たなビジョン技術の未来を創る」というテーマのもと、1名の講師に特別講演をお願いした。若葉研究発表後に、長田典子教授（関西学院大学）に、「AI・ビッグデータ時代の感性価値創造研究」と題して、関西学院大学感性価値創造インスティテュートで取り組まれている研究を中心に、学生や若手研究者をエンカレッジする刺激的なご講演をしていただいた。人の感性を指標化する技術や、感性に基づき製品やサービスの新たな価値を生み出す研究について、さらには、これらの技術を実際に企業との共同研究の成果という形で社会に還元した具体的な取り組みをご説明いただき、若葉諸君にとって今後の学術活動の参考になったことであろう。お忙しい中ご講演頂いた長田教授にはこの場を借りて心より感謝申し上げます。なお、座長は、飛谷 謙介氏（関西学院大学）にご担当いただいた。

3.4 最優秀発表賞

どの発表もレベルが高く、審査員を大いに悩ませた結果、以下の2名の受賞者が決まった。懇親会で表彰式が行われ、受賞者から若々しい挨拶があった。賞状とカップは、オンライン開催のため、後日事務局より郵送された（図1）。

【優秀発表賞受賞者（発表順）】

遠藤 大樹氏（東北大学）

橋本 慧志氏（中央大学）

優秀発表賞のカップは持ち回りで、次回のサマーセミナーまで受賞者の研究室に飾られる。研究の励みになることを期待する。



図1 優秀発表賞受賞者

3.5 オンライン懇親会

チュートリアルセッション終了後、17:30よりオンラインコミュニケーションツールを Webex から SpatialChat に切り替えてオンライン懇親会を行った。現実空間における対話では近距離の人の声は大きく、遠距離の人の声は小さく聞こえる。SpatialChat には二次元仮想平面上に配置された各参加者のアバターの距離に応じて音量を調整する仕組みが実装されている。各参加者のアバターが同一の仮想平面上に存在しつつ、近傍アバターとの会話音声のみが聞こえるようにすることで、仮想平面上で互いに離れた位置にいる各グループが同時並行的に会話ができるように工夫されたツールである。オンライン懇親会では、実世界の懇親会さながらに SpatialChat の仮想平面上をアバターが動き回り、様々な人のアバターと会話を交わす状況が自然発生的に生まれ、世代を超えたタテの交流、同世代のヨコの交流が行われた。

4. おわりに

今年度のサマーセミナーは、初のオンライン開催となったが、特に大きなトラブルもなく、無事終了した。図2は、オンライン懇親会で撮影した集合写真である。

サマーセミナー2020の開催にあたり、お世話になった皆様に全員に、紙面を借りて感謝の意を表したい。

次回のサマーセミナーは、画像応用技術専門委員会が中心となって開催する。飛谷謙介委員長（長崎県立大学）を中心に企画される。次回の開催形態は未定であるが、また温泉を楽しみながら議論出来るサマーセミナーの再開を期待したい。



図2 サマーセミナー2020 集合写真
(2020年9月7日 SpatialChatにて)